

「多文化共生」に向けて

近年、行き交う人が本当に多様化しています。2019年から新たな留資格創設、出入国在留管理庁の設置と、日本政府も共生社会実現に向けて舵を取り始めました。さて、日本語や日本文化に不慣れな人もそうでない人も、共に気持ちよく暮らすにはどうしたらよいでしょうか。例えば、最近、電車の駅に番号が振られ始めました。日本語や日本の電車の乗り換えに不慣れな外国の方だけでなく、私たちにとってこれもは大変便利です。また、東日本大震災当時「警報」「避難」「高台」という言葉が聞こえてきても意味がわからず、パニックになった外国人もいると言われています。ここは危険です。避難してください

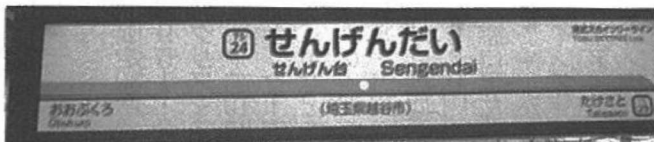
埼玉県立大学准教授 山田 千明

さい」と2度アナウンスする代わりに、例えば2回目は「ここはあぶないです。すぐ逃げてください」と平易な表現をすれば、急いで逃げる人が増えるとは考えられませんか。日本語に不慣れな外国人にだけではなく、色々な人に、やさしい日本語の方が「伝わる」可能性が格段に広がると思われます。

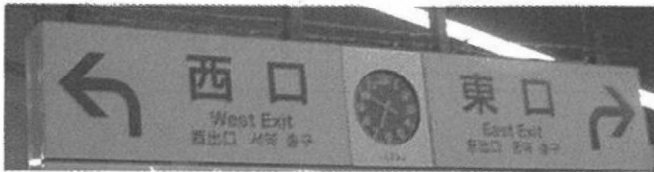
以前私が調査をした東海地



<28>



駅ナンバリング (せんげん台駅)



せんげん台駅出口多言語表示 (日本語、英語、中国語、ハングル)

相手の立場考えアプローチ

方の小学校では、次のような実践がなされてきました。例えば社会科の時間、外国人児童は他の教室で日本語指導を受けるという「取り出し授業」が行われます。音楽等の教科は在籍クラスで受けるのですが、取り出し授業から戻ってきた外国人児童に「どんなことを勉強したの」と級友が尋ね、勉強してきたその言い回しを母学級の黒板の端に書きます。

そして、その日は、先生も級友もその言い回しをできるだけ多く使って、外国人児童に語りかけるといふ取り組みです。外国人児童が一方的に日本語を学ぶだけではなく、日本人児童もやさしい日本語でアプローチし、また、外国人児童からもその言葉や文化を学ぶというスタイルです。みなさんが急に外国に住み、子どもが地域の学校に通うことになったと仮定してみてください。このように、子どもが学校に受け入れられているという実感があればうれしいと思いませんか。